愛称のある地域に密着した隧道

大／阪／の／建／築／まちあるき――「みしま野」

JR（旧国鉄）東海道線下隧道（とうかいどうせんしたずいどう） 通称名で「田中の丸また」と呼ばれる愛称がある

全景（田中町にある丸い股の様なと言う事から「田中の丸また」）

基礎・煉瓦・敷石・煉瓦からなる構造体

阪急茨木市駅の案内板に掲載されている「田中の丸また」

隧道が造られた街道筋に並ぶ造り酒屋と町屋（商店）

所在地： 茨木市田中町 2-16 付近
最寄駅： JR 茨木駅から北東へ徒歩 23 分
阪急茨木市駅から北へ徒歩 16 分
見　学： 隧道ですので見学は自由ですが、自動車や自転車・通行人に注意して見学してください。

日本建築学会が昭和55年（1980年）3月30日に発刊した『日本近代建築総覧』と言う書籍がある。日本全国に散在している近代建築を網羅し、一覧化したもので、韓国・台湾にまで及ぶ。位置・構造・創建年代・設計者・施工者等が書かれており、現在発行されている近代建築物の紹介本や案内本の底本であると言っても過言ではない。発刊・編集に当たって、委員会を構成したらしく、建築史を研究している当時の錚々たる学者の名前が並んでいる。その書籍の補遺の部分に、「田中の丸また」の愛称で知られる「東海道線下隧道」が記載されている。

建築基準法第2条に用語の定義として、建築物とは「土地に定着する工作物のうち、屋根若しくは壁を有するもの（これに類する構造のものを含む）」とある。隧道の形だけを見れば、土地に定着しており、屋根若しくは壁に相当する物もあるから、解釈によっては建築物であるが、隧道と言う用途から推せば、「建築物である」と解釈するのは乱暴な話である。この隧道の主要構造体が煉瓦造であり、半円アーチ形状であるにも関わらず、煉瓦の積み方が通常の理論とは異なる技法であること等、構造上特異であるとして、建築物ではない点を承知の上で、「補遺」として『総覧』に掲載したと考える。

煉瓦造のアーチは野石整層積した基礎の上に十数段積み上げて、その上にアーチの要石（キー・ストーン）状に切出した石を一列並べて、更にその上に煉瓦を載せてアーチを形成している。煉瓦の目地は螺旋状に緩やかなカーブを描いて天井面を覆いつくしており、煉瓦は要石（キー・ストーン）が無い状態で、整然としてアーチを構成しており、阪神淡路大震災の折にも、震源地から遠く離れていたとは言え崩壊しなかった。

この隧道は、元茨木川に並ぶようにして敷設されていた旧街道と思しき道路の上にある。旧街道は、茨木神社の東側を基点に、茨木城址西側を通って、一旦クランクし、造り酒屋や商店が建ち並んでいた街道筋を通りながら安威川へと至る。安威川は『茨木市史』にも記されている様に、神崎川や淀川にも繋がり、水運にも利用されていたことから、この街道は物流の要所であったとも考えられ、国鉄の線路が旧街道を横断する形で敷設されるに当たり、この隧道を構築したものと思われる。今でも地域住民にとっては無くてはならない隧道であり、「丸また」を訪れる見学者の姿も散見できる。　（神保　勳）